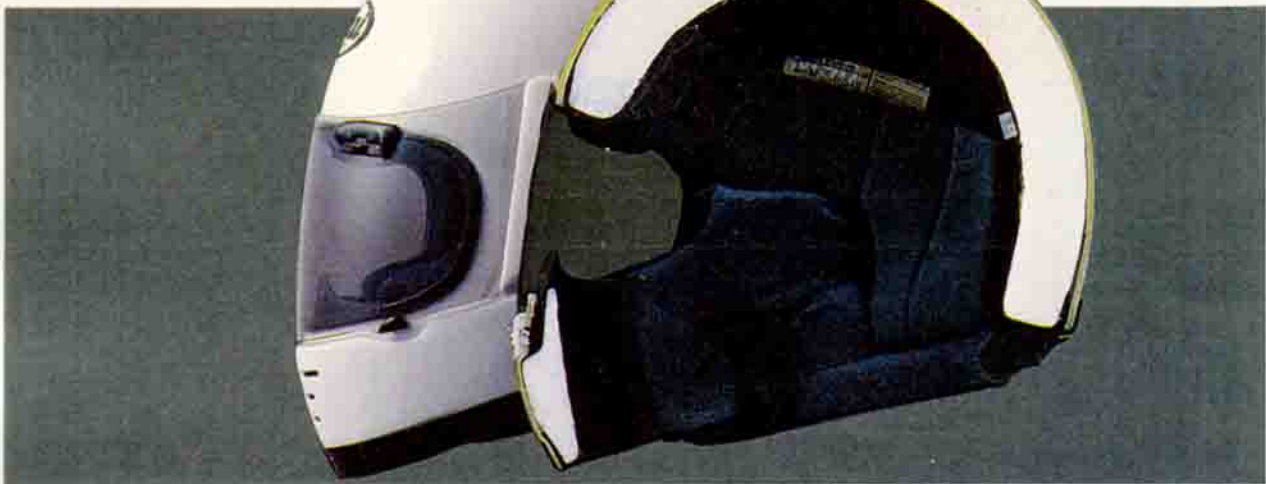


FEBRUARY 1993 VOL.58

ARAI NEWS



ヘルメットが、帽体と呼ばれる外側の殻とインナーと呼ばれる緩衝ライナーでできている事をご存じの方は大勢いらっしゃると思いますが、インナーは発泡スチロール製で、そのカタサに違いがあることをご存じの方は、少ないのではないのでしょうか。でも、ヘルメットを被って路面を打った時、直接頭にあたるのはヘルメットの緩衝ライナーです。だから、そのカタサは大きな問題です。そこで考えて下さい。



みなさんの中には、子供の頃いたずらをして、お父さんのゲンコツで頭をこすかれた思いを、お持ちの方が、いらっしゃると思います。目から火がでた人もいらっしゃるでしょう。その時、お父さんの手が、「スポンジのように柔らかかったらなあ」と思った方は多いのではないのでしょうか？ 頭をこすかれるのに、柔らかい物でこすかれたほうがいいに決まっています。ヘルメットに関しても同じ事で、直接頭にあたる発泡スチロールは、柔らかい方が痛いのです。



発泡体の硬度は、その密度でコントロールし

ます。リッター当たりの重量の高いものは硬く、少ないのは柔らかいのです。アライを除く世界中の平均的なスネル規格ヘルメットの緩衝ライナーをみると、リッター当たり、50g前後の発泡スチロールが多い様です。このカタサは、指の腹で押してもびくともしないカタサです。

これでは、スネル規格には合格しても、頭にはキツイものが残るでしょう。だからと言って、単に発泡スチロールだけを柔らかくすることはできません。スチロールの柔らかさを補う丈夫な帽体が伴わなければ、規格に合格することができないからです。硬いスチロールは帽体の弱さを補い、規格に受かるための妥協と言えます。頭にとっては痛い話です。



上の写真は、アライの代表的モデルの断面図です。

強固な帽体を持つアライのライナーでも、シールド開口部のヘリに近く、おでこの狭い面積で大きな衝撃を受け止めなければならないふちの部分だけは、50gになっています。しかし、その上方部および側頭部は、38gで作られ、比較的広い面積で衝撃を受け止めることのできる頭頂部は34gになっています。



すなわち、アライの発泡スチロールの大部分は、34~38gのやわらかい発泡体で作られています。34~38gのカタサは、指の腹で押し、凹んでしまう柔らかさで、頭に優しいヘルメットになっています。バイク好きの作るアライだから、自分自身の頭のためにも帽体を丈夫にして、柔らかなスチロールをえるようここまで努力してきました。



ところで、一体成型の発泡体のうちで、部分部分で発泡密度を変えて成型する方法は、アライ独自の技術なのです。この技術がないと、硬度をかえて一体成型することができないため、頭に優しい緩衝ライナーを作ることが困難です。アライは、この技術を20年以上も前にものにして、みなさんの頭をつつんできました。アライの技術は、人目に触れることないここにも生かされているのです。



ヘルメットをお選びになるとき、一度手にとってその内側の柔らかさをお確かめになるのも、大切な頭のために必要ではないでしょうか！

ヘルメットは、柔らかい方がよい！硬い方がよい？

(株)アライヘルメット
〒330 埼玉県大宮市東町2-12
TEL(048)641-3825~7



●アフターサービスの窓口は品質管理課です。
製品の事なら、お気軽にご相談ください。
直通 TEL(048)645-3661